

図書館だより

第32号 平成16年7月1日
高松工業高等専門学校図書館
TEL (087) 869-3813
FAX (087) 869-3948

厚さ4cmの世界 - 1000頁読破記に 寄せて -

一般教育科 国語 坂本 具償



「1000頁読破記」とは、本をトータルで1000頁以上読み、1000字(400字詰原稿用紙、2枚半!)程度の読破体験記を書くという図書館主催の企画です。今年で14回目となります。

1000頁って、どのくらいの厚さがあるのか。手元にある文庫本で測ってみました。約4cmです。紙質の良いハードカバーの本だったらもう少し厚くなるでしょう。しかし、このわずか4cmの厚さが、読書嫌いの人には、なかなか越えられない高い壁のように見えるかもしれません。

若い人の活字離れが指摘されて久しいように思うのですが、実際のところどうなのか、よくわかりません。最初に言われ出した「若い人」は、もう中年ぐらいになっているでしょうから、かなりの大人も含めて活字離れということでしょうか？

本校図書館の学生1人あたりの利用冊数が毎年発表されています。平成12年度が12.5冊、13年度が11.3冊、

14年度が9.4冊と、だんだん下がっています。15年度の昨年度が10.2冊と、少し盛り返しました。図書館の方でも、昨年はブックハンティング(学生が直接本屋に出向いて本を購入すること)を年2回実施するなど、いろいろと工夫されていて、それが功を奏したのかも知れません。

要は、その本が面白いかどうか。面白い本であればみんな読んでくれるのではないかと思います。ハリーポッターがいい例です。しかし、そのようなごく一部の本を除けば、どういう本を読んだらいいのか迷ってしまっているのではないのでしょうか。あまりにも本があふれています。新刊の山を見ると、私なども少し気後れしてしまいます。しかし、勇気をふるって一旦踏み込んでみると、そこには広大で深遠な世界があることに気づくことでしょう。わずか厚さ4cmの世界が、ひょっとしたら無限の深みへ君を誘ってくれるかもしれません。この1000頁読破が、読書嫌いから読書好きへと変わってゆくきっかけになればと期待しながら毎年国語科の宿題として課しています。

なお、読破記の提出締め切りは、9月3日(金)です。書名、著者名、出版社名、頁数を明記の上、国語科へ提出して下さい。あなたの名前も忘れずに。本校図書館の本もたくさん借りて下さい。また、優秀作品には校長表彰があります。どんどん応募して下さい。

(さかもと ともつぐ)

英語と日本人

一般教育科 英語 寺西 雅之



- ① 斎藤兆史、『日本人に一番合った英語学習法 - 先人たちに学ぶ「四〇〇年の知恵」』祥伝社、2003年
- ② Nitobe, Inazo. 1935. *Bushido: The Soul of Japan*. Tokyo: Kenkyusha.
- ③ 新渡戸稲造(著)、須知徳平(訳)、『武士道』講談社インターナショナル、1998年

日本の英語教育では「英語は母(国)語話者と同じように学ぶのが一番だ」という考えが主流となっている。初めて英語に触れる学習者に対して「自分に合った英語のテープを理解できるまで何度も聴きなさい」、「絶対に英英辞典のみを使って理解しなさい」といった学習法が最も効果的だと巷では考えられている。しかしながらこれを実践するには最低限の基礎英語力は必要だということは常識的に分かる。横文字が氾濫した現在では抵抗なく受け入れてしまいそうな理論ではあるが、例えばこれからタイ語を習おうとする場合に、「タイ・タイ辞典しか使ってはいけませんよ」と言われた時を想像してみると良い。①はこのような英語教育の問題点を取り上げ、日本の歴史上の「英語達人」がい

かにして英語を習得していったかを解説し、日本人のための英語学習法を提案した本である。この本を読み、文法解析や多読など自分達の実践してきた学習法が日本人には最も効果的だと知り、勇気付けられた英語教師も多い。

しかしこの本が提起している最大の問題は、「我々は英語とどのように付き合っていくべきなのか」である。津田梅子のように臨界期(4歳から15歳ぐらい)を英語圏で過ごせば誰でも英語は上達するであろう。しかしながら梅子のように家族とコミュニケーションがとれなくなるほど母(国)語を忘れても良いのだろうか？ いわゆる「バイリンガル」に関する誤解や幻想に惑わされ、小学校での英語教育や、いわゆる「英語漬け」であるイメージ教育の導入が検討されている今の日本にとって、これは重大な問題である。実はこのことに関して学生に質問してみると「どうせ英語で苦労するのなら最初から英米人に生まれてくれば良かった」という意見が多いので驚いたことがある。ここから先は英語教育の枠を超え、日本人としてのアイデンティティーという問題に関わってくる。例えば「英語達人」の一人、新渡戸稲造著の②は「日本人とは何か」を考える際の良き入門書になるのではないかと。少しだけ外国を経験し、何よりもまず他人を思いやる日本人独特の優しさを見直した「プチ愛国者？」の一人である私にはとても興味深く読めた一冊である。なお、私は英語教師としての「義務感」もありオリジナルである英語版で読んだが、学生諸君には対訳版③がお勧めである。

(てらにし まさゆき)

薄い本、二冊

一般教育科 英語 宇野 光範



どんなことを通してでもよい。少し色気を出して、本当の価値について語ろうと試みれば、最終的に、人はただ口をつくむことしかできない。価値というのはただ単に、言葉にすることができないのである。

「これは自分にとっては価値がある」といった蒙昧な表現を捨て去ることができた時に、青春は始まるのかもしれない。だとするならば老春とは、それがあるとして、一体どのようなものか。

ヘミングウェイ作『老人と海』の主人公、サンチャゴは、小舟でひとり繰り出したキューバ沖で、その船よりも大きなカジキマグロと4日間の死闘を繰り広げる。生き抜いた老人は、獲物となり、いつのまにか心の友でもあったカジキの死体を船体脇にくくりつけ、帰航の途につく。血の臭いはサメの集団を誘う。小柄な老人はカジキの肉を守るために、再び棍棒をかかげる……。

狭い港湾に漂う巨大な白い骨を見つけて、観光客はいう、サメがあんな見事な尻尾を持っているとは思わなかった。その頃、闘いに疲れきった老人は陸で深い眠りにつき、ライオンの夢を見ている。

これは、真なるヒーローの物語だろうか。ゴミと一緒に浮かぶカジキの背骨に、老人サンチャゴの行為全体に、「本当の価値」がコバンザメのように貼りついているのだろうか。

「およそ語ることのできるものは、すべて明晰に語りうる。語りえないものについては、人は沈黙しなければならない。」

ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』の最後の文である。世界とは事実の集まりで、世界の構造は論理（言葉）の構造と完璧に一致している、という思想がこの本の根底にはある。

『論理哲学論考』は、ウィーン学団と呼ばれる科学者集団に大きな影響を及ぼし、論理実証主義という一派が形成された。しかしながら実証主義者たちは、ウィトゲンシュタインが世界の外に追放し「沈黙」という形で死守した、価値という実在に対して、気がつかない振りをした。

価値を直接に描くことはできないが、その代わりに、価値が失われ「墮落」していく様を美しく記述するのが、作家の務めであろう。

闘いを終え、ライオンの夢を見ている老人は、もう二度と目を覚ますことはない、と私には思われる。人々に勇気と希望を与えたとされるヘミングウェイは、『老人と海』で確実にしたノーベル賞受賞の数年後、老春の入り口で立ち止まったまま、ひとり猟銃で頭を打ち抜いた。その後の現代という時代は「価値」という語を再び私たちの言葉の中に引きずり戻し、それに「無価値」というレッテルを貼ってふくみ笑いの対象にしている。

アーネスト・ヘミングウェイ著、『老人と海』
ルートヴィッヒ・ウィトゲンシュタイン著、『論理哲学論考』

(うの みつり)



新

着

図

書

から

『イラクの中心で、バカとさげふ』

橋田信介著 (アスコム)

世界の戦場を渡り歩いたベテラン戦場カメラマンのイラク戦取材記である。イラクの戦場の実態と取材の裏側を建前なしの本音で語る。なぜ戦場へ行くのか、どうやって戦場に乗り込むのか。話はビザを偽造するところから始まる。残念なことに、著者橋田氏は先日バグダッド近郊で武装グループに襲撃され殺害された。哀悼の意を表す。

機械工学科教員 小島 隆史

『死の壁』

養老孟司著 (新潮新書)

この本はベストセラーとなった『バカの壁』に続く養老孟司の新たな壁のテーマ「死」について書かれている本です。絶対避けて通ることのできない「死」。なぜ人を殺してはいけないのか、生から死への境界のあいまいさ、死という問題が現代人から排除されてきているということ、抽象的ではなく、解剖学者ならではの具体的な切り口で書かれた一冊。

3年E組 石川 晋也

『私立霧舎学園ミステリー白書1～4』

霧舎巧著 (講談社ノベルス)

4月。入学式。私立霧舎学園への転校生、羽生琴葉(17)が立ち込める霧の校庭で遭遇した「霧密室」殺人事件。学園にまつわる謎めいた伝説が2人の名探偵候補(?)を琴葉のもとへとひきよせるとき、秘密(ミステリー)は満天下に明かされる。

3年M組 上池 奈央

『ひまつぶしの殺人』

赤川次郎著

一見普通の家族だが、実は彼らはそれぞれ泥棒、殺し屋、さぎ師、警官である。全ての真実を知るのは次男の弁護士、早川圭介ただひとり。そして今、その早川家の関心は謎の石油王が持つ宝石に集中し……。

1年3組 西郷 里菜

『保険的法律ガイド知らなかったではすまされないパソコン&ネットの落とし穴』

栗林彰著 (ソシム)

情報技術の進歩にともない、ネットワークに関するトラブルが急増しています。本書では、例えば、ニュースサイトの記事を自分のホームページに掲載した場合など、パソコンやインターネットに関わる多くの事例をとりあげ、それが、違法か合法かを解説しています。自分のホームページを作りたいと考えている人だけでなく、パソコンに興味があるすべての人にお勧めの1冊です。

電気情報工学科教員 重田 和弘

『マンガで学ぶコンクリートの品質・施工管理』

コンクリートを考える会著 (井上書院)

建設技術者は、コンクリート構造物の良否である大小のひび割れの発生原因となる多様なメカニズムを正しく理解する責任がある。本書は、実社会での工事現場のコンクリート品質・施工管理の例に、漫画の主人公の体験を通して容易に現場見学ができ、ポイントとなる知識も修得できる本。

建設環境工学科教員 松原 三郎

『TETORA』

深沢美潮著 (メディアワークス)

『TETORA』とは、仮想世界を舞台に繰り広げられるオンラインゲームである。

虚構の世界と現実の世界、その間隙で揺れ動く少年の人間関係を描いたもの。

分類は近未来SF小説となっているが、もっと柔らかいものだと思う。

2年C組 黒田 貴大

『負けてたまるか! 青色発光ダイオード開発者の言い分』

中村修二著 (朝日新聞社)

徳島県のお小さな会社に勤めていた著者が、世紀の大発明をなし、米国の大学教授になり、200億円を巡る裁判に勝訴するということは、それなりの哲学を持っているのであるう、とは思っていたが、その哲学とは「コンチクショー」の一言に集約される意外とシンプルなものであることが判った。

電気情報工学科教員 太良尾 浩生

『なぜか面接に受かる人の話し方』

三浦行義著 (PHP研究所)

就職や進学に際して、面接の重要性が増している。How toのものでテクニックを身につけるのも良いが、付け焼刃では普通の姿が見え隠れする。改まった場で、自分の考えを論理的にかつ正しい話し言葉で述べるには、普段から相手を意識して考え、正しいことばで話す習慣が大切かも知れない。

制御情報工学科教員 平岡 延章

『日本のスイッチ』

慶應義塾大学佐藤雅彦研究室(著)、佐藤雅彦(毎日新聞社)

本書は、現在の日本人のステレオタイプをあぶり出す興味ある一冊である。もちろん中には、ニヤリとする部分や苦笑する部分も含まれるが、今の日本人のアイデンティティーを探った面白い本である。今までに無い視点で日本を見つめているところに、著者のスマートさが感じられた。

制御情報工学科教員 由良 諭

『「気分転換」の処方箋“うつ”もまた楽し』

精神科医 斎藤茂太著 (大和書房)

私は別に自分がうつだからなどという理由でこれを読んだのではありません。ただ「気分転換」というところに少し魅かれたのです。誰でもストレスがたまったり、テンションが下がることはあります。そんな時にちょっと見てみると、もしかしたらいい処方箋が入っているかもしれません。

4年S組 岸 寿子

『ネット依存の恐怖』

牟田武生著 (教育出版)

オンラインゲームにはまってしまって学校では寝てばかり……そんな人はいませんか?居心地の良い仮想現実の世界にいつまでもいられるわけではありません。中には数年に渡って会社や学校に行かず引きこもってしまう人がいるようです。片足をつっこんでしまっているという自覚のあるあなたは是非一読を。

機械工学科教員 吉永 慎一

『ダ・ヴィンチ・コード』

ダン・ブラウン著 (角川書店)

本書は、ルーブル美術館で起きた殺人事件をきっかけに、ダ・ヴィンチの絵画に隠された暗号の解読を通して、聖書を中心にした2000年に及ぶ西洋史の謎に迫る異色の歴史ミステリーであり、その内容が論争を呼び、全米で750万部を売り上げる驚異的なベストセラーを記録した。物語のベースはいわゆる「聖杯物語」なのだが、この物語を知らなければ、米映画『インディ・ジョーンズ 失われたアーク』を観てみると良いだろう。

一般教育科教員 與田 純

『電験三種法規 合格への近道』

若月輝彦著 (弘文社)

今年、僕のクラスでは最後の年ということもあり何か資格を取りたいと考えていました。みんなで勉強するのに法規に関する分かりやすい本をぜひ、これを機会に買ってほしいと思います。みんなに合格をもたらす一冊だと信じています。

5年E組 弓山 直輝

『DIVE!!』

森絵都著 (講談社)

高さ10メートルからの飛翔。時速60キロの急降下。わずか1.4秒の空中演技。どんなごまかしも通用しない。地を離れ、宙を求めて、水へ還る。

「飛び込み」という競技に挑む少年達の葛藤の日々を描いた作品。

3年S組 峠 典孝

『夕オ 老子』

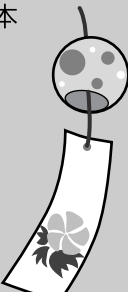
加島祥造著 (筑摩書房)

老子は、「どんな生き方が望ましいか」と考えた思想家の一人です。だからと言って、難しく考える必要はありません。気軽に読んでください。一つ一つの詩が独立しているので、どこから読んでも構いません。2500年の時を経た老子のメッセージを81のポエムで感じて下さい。

3年C組 大前 貴紀

新
着
図
書
か
ら

＊図書館に新しく入れた本



『大学院のすすめ』

大槻義彦著（東洋経済新報社）

最近大学院まで進学をする人が増えています。大学の研究室には必ず大学院生がいますから、大学院の様子も分かりますが、専攻科だとなかなかそういう機会もないと思います。「できれば大学院まで進学」と考えている人はこの本を読んでみてください。大学院入学から院生の暮らしまで分かりやすく書いてあります。

機械工学科教員 吉永 慎一

『ロボット機構学』

鈴木康一著（コロナ社）

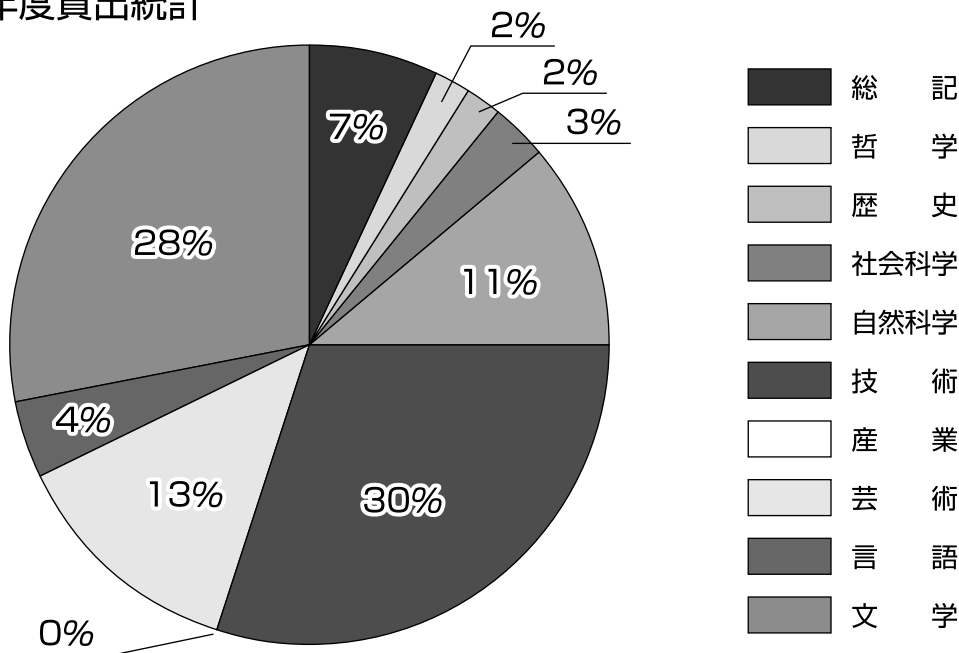
ロボティクスの立場から機構学を解説した本。機構学で取り扱う各種対偶がロボットや日常目にする諸機械でどのように使われているかをわかりやすく図説し、ロボット機構の運動学(静力学)までを扱っている。動く機械の仕組みに興味を持つ人にお薦めの一冊である。

制御情報工学科教員 平岡 延章



図書館から

■平成15年度貸出統計



■平成15年度利用者別貸出数

	図 書	付録CD-ROM	C	D	雑 誌	合 計
学 生	7,219	58	461		145	7,883
専攻科生	757	30		9	12	808
教 職 員	806	9		54	241	1,110
学 外	191	3		3	22	219
合 計	8,973	100		527	420	10,020

■平成15年度学生貸出冊数

	平成15年度	平成14年度	平成13年度
学生貸出総冊数	8,691	8,016	9,756
学生1人当たり貸出冊数	10.2	9.4	11.3

■平成15年度クラス別貸出数

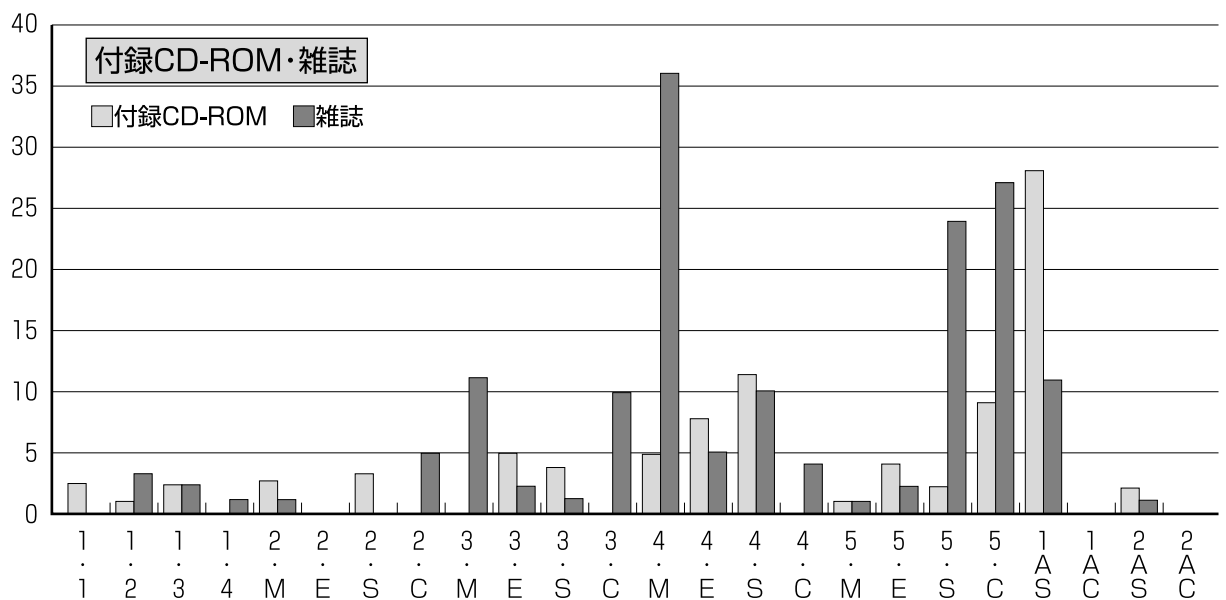
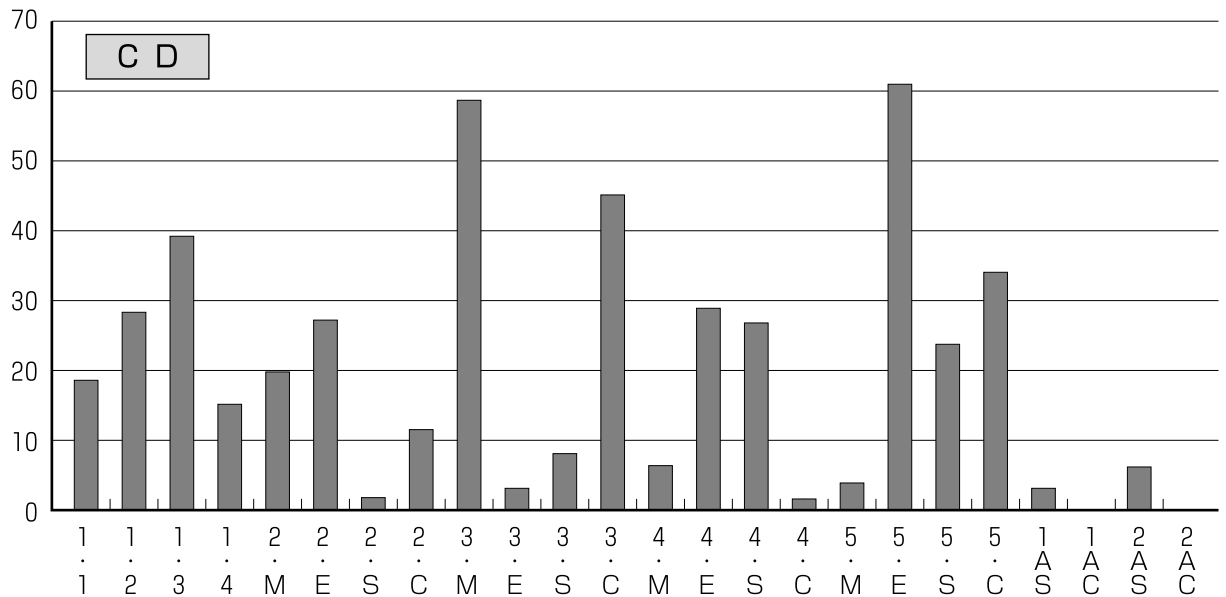
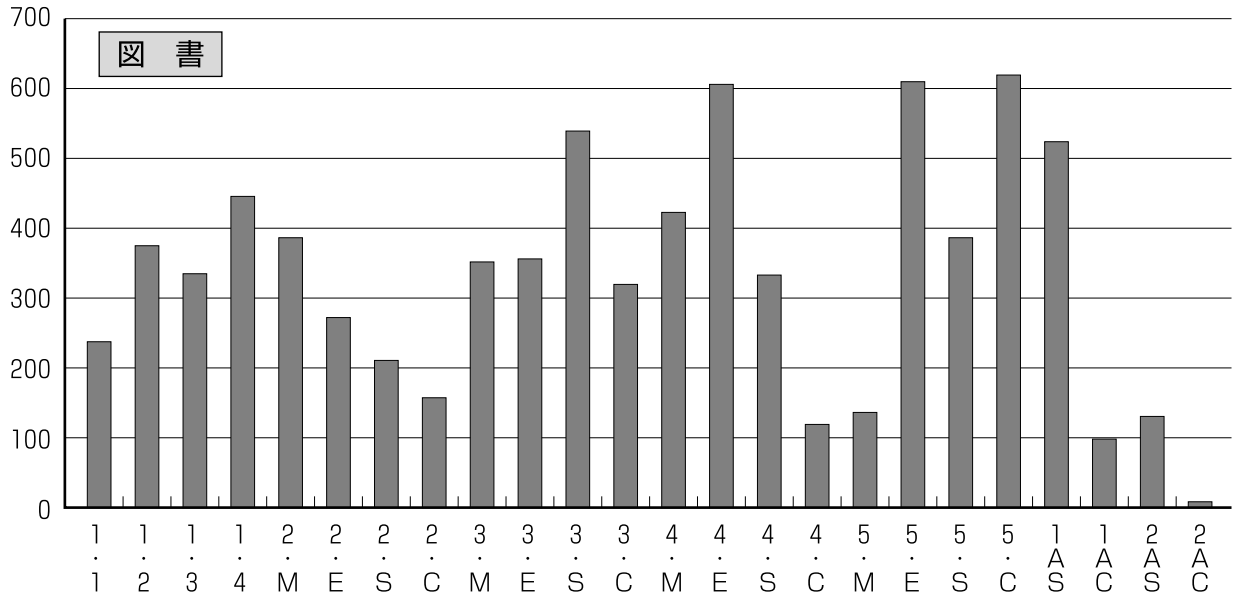


図 書 委 員 か ら

委員長になって

4年E組 山本 聡美



今年度の図書委員長となった電気情報工学科4年の山本です。図書委員になったことはあるのですが、図書委員長なるものになるのは初めてのことです。今までは与えられた仕事のみをしていましたが、これからはどんなことにも積極的に取り組んでいきたいと思ひます。今年一年間どうぞよろしくお願ひします。

さて、皆さんはどのような目的で図書館を利用され

ていますか。図書館を利用する目的は人それぞれです。読書をするためであったり、資料を参考に勉強をするためであったり。図書館は一年中快適な温度に設定され、いつも集中しやすい環境にあります。とても素晴らしいことだと思ひます。その環境を保つ為にも周囲への配慮は忘れないようにしたいものですね。

それと、図書館の良い所をもう一つ。図書館には様々なジャンルの本が集まっています。恋愛小説一つをとっても本当に色々あるものです。また、ブックハンティングでは、今まで図書館にはなかったような本を見つけてきて、より多くの方が自分のお気に入りの本を一冊でも見つけられるような図書館にしていきたいです。

(やまもと さとみ)

— 平成16年度 委員紹介 —

図書館情報管理運営委員

館長	長谷川
一般	高橋・寺西
機械	小島
電気情報	本田
制御情報	由良
建設環境	松原
事務部長	板橋

図書委員 (学生)

◎委員長 ○副委員長

	1組	2組	3組	4組
1年	渡邊 大樹	河野 剛志	西郷 里菜	谷本 良介
	M	E	S	C
2年	大野 雅之	藤沢 祐輔	松元 俊明	黒田 貴大
3年	上池 奈央	石川 晋也	○徳田 大輔	大前 貴紀
4年	山下 徹	◎山本 聡美	岸 寿子	立石 裕美
5年	浦上 貢輔	松村 優樹	柴田 文明	箕野健一郎

1000頁読破記念募要領

夏休み中の読書体験として、1000頁読破にチャレンジしてみましょう。

- *読破記：1000字以上にまとめる
- *用紙：400字詰め原稿用紙2枚半
- *用紙の始めに：学年・組・番号・氏名を記入
- *最後に：書名・著者名・出版社名・頁数を記入
- *提出先：国語教官室
- *提出期限：9月3日(金)

★優秀作品には表彰等があります。
「図書館だより」第33号に掲載する予定です

夏季休業中の長期貸出について

夏季休業中は下記のとおり、貸出冊数と貸出期間を大幅に増やしています。この機会に図書館を利用して読書好きの学生が多くなることを期待しています。

また、1000頁読破記にも挑戦してみましょう。

- 貸出期間：7月9日(金)～
- 返却期限：9月3日(金)
- 貸出冊数：20冊まで貸出OK

編集後記

ここ数年減少気味だった学生一人当たりの貸出冊数が、平成15年度にはようやく上向きに転じました。平成14年度9.4冊、そして、平成15年度10.2冊です。しかし、クラス別統計によると学年が上がるにつれて図書館を利用するクラスとそうでないクラスとの差が大きくなってきています。夏休みはエアコンのある閲覧室に入り浸って過ごすのも一つです。何と言っても本には人間のつくりあげてきた文明が入っているのですから。

(図書館長)

